



飛騨市が広葉樹活用の中心地へ

広葉樹のまちづくり



飛騨市の美しい広葉樹を次世代につむぐ。協力隊が広げる広葉樹の可能性。

「広葉樹のまちづくり」は、地域資源である広葉樹を活用し、持続可能な森林管理と地域振興を目指す取り組みです。飛騨市は93.7%が森林となっており、その約68%を広葉樹が占めています。この取り組みは、広葉樹の新たな活用方法を生み出し、そこから生まれた利益が森林に還元される循環を生み出すことを目指しています。

針葉樹と広葉樹の違い

針葉樹より硬く丈夫なため、家具・床材・内装材・フローリング材などに利用されています。飛騨地域では古くから曲げ木という技術を使って家具に利用されてきました。

広葉樹活用に向けた課題は山積み

市内の広葉樹の多くは、細くて曲がりがあることから安価なチップ等にししか活用されていません。そこで、どのようにして価値を向上させるかが課題となっています。

飛騨市の新たな価値を見出す広葉樹活用方法

大量消費の時代から、オーダーメイドで長く使う時代へ。
生まれながらの形状を活かした独創的な製品が生まれています。
広葉樹は多様性を尊重する時代に適した大きな可能性を秘めています。



広葉樹の原木



それぞれ個性のある原木



広葉樹の個性を生かして作成された商品



地域おこし協力隊
まつの ゆき
松野由季 さん



出身地 京都府京田辺市 委嘱日 令和7年5月1日

**着任から3カ月経ちましたが
飛騨での暮らしはいかがですか？**

飛騨の山の景色に毎日感動しています。
そして、生鮮食品の味が抜群。
新鮮なお野菜を頂くことも多いので、
移住してから台所に立つことが増えました。

協力隊になったきっかけは？

建築設計の仕事を通して、家具や家の材料に興味を持つようになりました。飛騨市を訪れた際、広葉樹を活かした官民一体のまちづくりに感銘を受け、協力隊への参加を決意しました。

現在取り組んでいることは？

市内の広葉樹の流通量を増やすために機械での原木仕分け作業を行っています。ただ、生き物相手なので奥が深く日々勉強です。本格的な伐採シーズンが始まる前に業務が円滑に進むようなシステムを構築し、試験的に運用できることを目指しています。

着任してから 感じたことは？

ものづくりの背景や生産者の想いが見えにくくなってしまっているということを痛感しています。少しでも消費者と素材生産の現場との距離を近づけ、新たな価値を創り出したいです。

もっと詳しく知りたい方は特設ページをご覧ください。

皆さんへのメッセージ

自然豊かな環境にや温かい方々にいつも心救われています。
この景色、雰囲気をも長く残していけるように少しずつ恩返ししていきたいです。



特設サイト

